



SDGs×ESD レポート Vol.8

ESD は (Education for Sustainable Development) 略称で「未来を変える人づくり」を意味します。

発行：NPO 法人持続可能な開発のための教育推進会議 (ESD-J)

地球規模で新型コロナウイルスの感染が拡大する中で、新しい年を迎えました。この危機を乗り越え、新しい社会を構築するために劇的な価値感の変化＝パラダイムシフトが求められています。ポストコロナの未来像を皆様と描き、実現していきたいと思っています。新型コロナウイルスの終息を願い、明るい1年となりますようお祈り申し上げます。



未来につなぐふるさと基金 市民参加型プログラム (3回シリーズ) 報告

未来につなぐふるさとプロジェクトの市民参加型プログラムとしてオンラインワークショップを開催しました。



第2回 「どんなことができる？安全・安心なファミリーレストラン」報告 後藤 尚味

- 11月7日 (土) オンライン開催
- 参加者:小中学生、成人 計15名

講師に (株) アレフ エコチーム 環境教育企画・制作ご担当の高木あかねさんをお招きし、ハンバーグレストランびっくりドンキーの取り組みについて教えて頂きました。まずレストラン経営で、無駄をなくす取り組みについて、食品残渣のリサイクル、廃油の回収、節水、エネルギーの効率化等についてお話しいただきました。

次に、びっくりドンキーのハンバーグプレートに盛られる食材「米」「肉」「野菜」の3つのグループに分かれ、下記の5つの問いを検討しました。

- ①安全で持続的に調達できる理想の食材とは何か、②その理想の食材は、全国300店舗に安定的に供給できるか、③現実的な折衷案はどこか、④コロナウイルス拡大のようなリスクへの対応、⑤企業の取り組みをどう消費者に伝えるか



全体会に戻り、各グループが独自に考えた食材生産・調達の方法、大切にしたい価値観や取り組みのPR方法について発表しました。最後に、高田さんからびっくりドンキーで実際に行っている食材生産・調達・管理等についてお話し頂きました。お米を例にあげると、殺虫剤、殺菌剤は不使用、除草剤1回以下の使用が守られた「省農薬米」を全店舗で提供し、お米の契約農家は、毎年田んぼの生き物調査を行い、継続的な調査を通じて生物多様性の変化を数値で確認しています。

参加者は、びっくりドンキーの多角的な環境に配慮したレストラン経営について学び、このようなファミリーレストランで食事することで社会貢献ができることについて理解を深めました。多くの参加者が「びっくりドンキーで食事をしたい」との感想を持ち、実際にイベント後すぐに食事された方もいらしたようです。

また、今後外食をする際、食料を買う際には、「食材の安全性」、「食材を販売・提供する企業の社会を良くするための取り組み」、「生産地・生産者・どのように生産されているか」について意識したいと参加者の多くが表明しました。消費者として、(株)アレフ様のような素晴らしい取り組みを行っている企業を応援していきたいですね。

ワークショップの PPT 資料は以下のサイトからダウンロードできます。
<http://www.esd-j.org/news/events/4866>



第3回 「甘いバナナの苦い現実」報告 横田 美保

- 12月5日 (土) オンライン開催
- 参加者:小中高校生、成人 計21名

立教大学異文化コミュニケーション学部教授・石井正子さんをお招きして、「バナナ」にまつわる「苦い現実」を紐解くワークショップを開催しました。

第1部では、フィリピンのバナナの生産現場の様子、輸入されるバナナの特徴や日本への輸入量の変化等の概要を説明していただきました。第2部は、「甘いバナナの苦い現実」と題し、バナナ産業の問題点や、ステークホルダーが抱える問題を学びました。

第3部では、バナナ産業の代表的なステークホルダー①多国籍企業、②フィリピン企業、③土地所有者で農業労働者、④梱包作業所の労働者のロールプレイに基づくグループディスカッションを行いました。

まず、自分の利益を最大化するために、誰に何をしてほしいかを伝え、次にバナナ産業全体、バナナ農園、自然環境、自分の健康・生活などの「持続可能性」、人権 (尊厳) を考慮して、誰に何をしてほしいかそれぞれの立場から伝えました。最後に上記の2つのディスカッションで気が付いたことを話し合いました。

各グループからは、「今のバナナの産業は企業の利益の最



大化を中心とした形態で成り立っているが、長期的な視点、地球への影響、環境も考えて、産業全体を見直していくことが必要」、「利益を最大化すると、他人に求めることが多いが、持続可能性となると相手の立場、背景を考慮して話し合うことができた」などの意見が出ました。

最後に、私たちの生活をどのように変えたら社会、バナナ産業がより「サステナブル」になるのか、社会を良くする「消費者」としてどんな行動が必要なのかを考えました。

アンケートに回答した全員が「今後バナナを購入する際の視点が変わった」と答えました。感想としては、「フィリピンの現状を知って、自分は何ができるのかを考えた」、「少し高くても無農薬のバナナを買おうと思った」、「学んだことを家族や友人に共有したい」というように、行動変容に繋がる学びがあったと回答した参加者が多く見られました。

ワークショップのPPT資料は以下のサイトからダウンロードできます。
<http://www.esd-j.org/news/events/5050>

第7回 地域担当理事報告シリーズ

コロナ禍の中で行った「ESD for 2030」を踏まえた九州地域のESDの取り組み

～石垣島・沖縄本島にて～



九州・沖縄地方担当理事 三宅 博之

コロナ感染拡大は、2020年12月に入って第3波を迎えたと言われます。私が所属する北九州市立大学は、1学期が、講義・演習ともオンライン（大半が動画視聴形式）授業、2学期は講義がオンラインで、演習は半分が対面になりました。その後、10月半ばには授業に関わるフィールドワークは一定条件のもと許可されました。北九州市立大学法学部政策科学科の三宅ゼミでは環境教育、ESDやSDGsに関わるテーマを学習していますが、特に、現場での実践活動を重視しています。学科の性格のために公務員になる学生が多く、市民の声をきちんと聴くには利害関係が発生しない学生の時に現場に行こう！とのスローガンのもと、様々なところに出かけています。本来は昨年9月にバリ島に出かける予定でしたが、コロナ禍のために変更を余儀なくされ、最終的に現地の受け入れ先と連絡を取り、石垣島・沖縄本島に決定しました(12月4日～7日)。学長や学部長からの許可を得るために、保護者の同意をとることが急に求められ、速達で保護者に同意書を送ると同時に、宿泊施設から新型コロナ対策の情報を入手、写真の添付など、以前よりも数多くの提出書類を準備しなければなりません。受け入れ先には新型コロナ感染拡大予防の徹底を改めてお願いすると同時に、私たちも予防チェック係を決め、新型コロナ感染予防対策を慎重に行いました。

うなものを知ることが目的です。ヘッドライト付きのヘルメット、ライフジャケットを身につけました。鍾乳洞には水が溜まっている箇所もあり、ヘッドライトを頼りに、胸元までくる水の中を足元が見えない状態でゆっくりと歩きます。自然の不思議さや醍醐味を体感できます。これは、コロナ禍の中で考えたアクティビティだそうです。普段、このようなワイルドな体験をしたことがない都市在住の学生たちは、今回自然の不思議さや重要性が十分に学習できたことに非常に満足していました。



石垣島吹通川のマングローブ林観察

沖縄本島では琉球大学・大島順子先生率いるエコロジカル・キャンパス学生委員会の学生たちと百名海岸のビーチクリーニングを行い、隆起サンゴ礁の奥に流れ着いていたペットボトルや他のプラスチックゴミを拾い集めました。最終日は県南部で平和学習を行いました。ゼミ生の中に沖縄本島出身の学生が2名いたので、現場で沖縄出身者としての自らの想いを語ってもらいました。現在、報告書の作成作業に入っていますが、学生たちはコロナ禍の中で現場からどのようなESDやSDGsのメッセージを学んだでしょうか。



琉球大生と百名海岸清掃活動



平和の礎にて恒久平和へのお祈り

石垣島ではエコツアーふくみみの大堀夫妻にお世話になり、1日目は吹通川のマングローブ林をシーカヤックで観察し、途中から沢登りを行いました。河口から滝のところまで植生がいかにか異なるか、さらには上流からの土砂の流入によって枯れるといった現象が見られたマングローブ林の地域などを観察しました。2日目は野底岳に登る予定が、天候が危ぶまれたため、鍾乳洞探索に切り替えました。観光化されていない鍾乳洞がどのよ



持続可能な社会のための人材育成

毎月第4土曜日開催 13:00~15:00
コーディネーター：小金澤 孝昭理事

第1回、第2回
を報告します！

このセミナーは本年度、ESD-Jの理事が中心になって「持続可能な社会のための人材育成」を趣旨として、地域で人育てに関わっている人、ESD/SDGsに取り組んでいる人、これから本格的に取り組みたいと思っている人、ESD/SDGsの基礎について学びたい人などを対象に、11月から3月まで5回シリーズで、開催する企画で始まりました。

★各回オンラインセミナーの発表資料は当団体ウェブサイトからダウンロードが可能です★



第1回 11月28日(土) 「ESD/SDGsって何でしょう？」 ESD-J代表理事 重 政子

まず、私から入門編として、ESD/SDGs関わる“持続可能性”と“教育”に関する基本的な捉え方の背景とその潮流、そして、ESD/SDGsを自分ごとの活動にしていくためのヒントをこれまでの経験事例を基に説明しました。続けて、鈴木 克徳ESD-J理事より「皆が安心して安全に暮らせる社会づくりに向けて」と題し、現代の社会がなぜ持続可能でないのか、何が問題かを考え、SDGsにより私たちが何を目指すべきかをお話しました。これまでの持続可能な社会づくりに向けた様々な努力を振り返りつつ、どうすれば皆が安心して安全に暮らせる明るい社会をつくる事が出来るか、教育・人づくりという観点から一緒に考えると云うコンセプトでセミナー運営を行いました。アンケートでは、参加者からESDの基本的な概要とESD for 2030で示している教育（人育て）の解釈を再確認する機会になった等、好評価が得られました。参加者はスタッフを含め総数30名でした。また、オンラインセミナーであったため、参

加者が全国に分散されていたとのプラスの効力がみられ、次回以降にも期待が寄せられます。



第2回 12月26日(土) 「自治体とESD/SDGs」 ESD-J副代表理事 池田 満之

第2回のセミナーは、「自治体とESD/SDGs」をテーマとし、阿部 治ESD-J代表理事（立教大学ESD研究所所長）より、全般的な説明と全国の特徴的な事例の紹介を、池田 満之ESD-J副代表理事（岡山ESD推進協議会（RCE岡山）運営委員長）より、岡山の事例を具体的に紹介しました。ここには岡山市SDGs・ESD推進課の小川課長も加わり、行政側の立場から紹介内容を補足・補完していただきました。

セミナー参加者からは、「ESD/SDGsの理念だけでなく、自治体の動き方がイメージできるようになった。多くの自治体取り組み始めていることにも期待がもてた。特に岡山の事例は、具体的な学びがたくさんあった」といった反応がありました。質疑や意見交換、討議の中では、大牟田市教育委員会の高倉先生から、地域と学校と団体を結ぶ教育委員会の役割が紹介されるなど、「つなぎ役」にフォーカスが当てられ、行政組織、学校、市民、企業などを結ぶ組織としての協議会（推進母体）の重要性、コーディネートする人材やネットワークの必要性などが、参加者とのやりとりなどを通して明確になりました。

今回のセミナーでは約30分の総合討論の時間がありました。ZOOMでの全体討論では発言しにくいこともあり、参加者

からは「ZOOMのブレイクアウトセッションを導入するなど、参加者同士が対話し、互いの「気づき」を共有するような工夫が欲しかった」、「当日のスライド資料を予めお送りいただければもっと有り難い」といった意見が参加者からあり、今後の運営へ活かしていきたいと思えます。



第4回は2月27日、第5回は3月27日に開催します！



ESD-Jの協賛企業インタビュー第5回目は、2011年からESD-Jの賛助会員としてESD推進活動を応援してくださっている損害保険ジャパン株式会社様の持続可能な社会の実現に向けた取り組みについて伺いました。

持続可能な社会の形成に資する活動について

当社は(公財)SOMPO環境財団および公益社団法人日本環境教育フォーラムと共催で、一般市民向けに1993年より継続して「市民のための環境公開講座」を開講しています。市民が環境問題を正しく理解・認識し、それぞれの立場で具体的な活動を実践できるように開講した講座で、これまでに延べ22,964人の方々に参加いただきました(2020年3月現在)。2019年1月には、25周年記念として「市民のためのSDGsフェス」を開催しました。またコロナ禍で従来のような集合型での開催が難しいなか、環境問題の学びを止めないよう、2020年度は無料のオンライン講座として全9回開催しています。

社員ひとりひとりが行う様々な社会貢献活動

当社グループの役職員によるボランティア組織「SOMPOちきゅう倶楽部」を中心に、全国でさまざまなボランティア活動を展開しています。1993年の発足以降、全国各地で代理店などと協働し、森林保全活動や清掃活動、施設を訪問して行う車いすの整備・清掃、古本の収集など、地域のニーズや特性にあったボランティア活動を全国で実施しています。2019年度は、全国で36,336人以上の社員・代理店がボランティア活動に参加しました。また、役職員の有志が任意の金額を給与から寄付する「SOMPOちきゅう倶楽部社会貢献ファンド」を1996年に設置しました。ファンドは、同組織の活動や広域災害支援、メンバーが応援するNPOなどへの寄付に活用されています。

今後、新たに注力される事業や活動について

気候変動適応ニーズの高まりに対しては、損害保険だけでなく、リスクコンサルティングサービスの機会拡大が見込まれます。SOMPOリスクマネジメントは、2018年から文部科学省の「気候変動適応技術社会実装プログラム(SICAT)」に参画し、気温が2℃または4℃上昇した際の気候予測データベースの活用や、研究機関との意見交換などを行いました。このような取り組みを通じて、自然災害評価モデルの高度化や気候関連情報開示などに関するノウハウの蓄積とビジネス拡大を目指しています。

上述の活動の詳細につきましては、ウェブサイトをご覧ください。

<https://www.sompo-japan.co.jp/csr/>

損害保険ジャパン株式会社様には、オンラインセミナー第3回「企業とESD/SDGs」の講師としてご登壇いただきました。その模様はウェブサイト、次号のニュースレターでご報告いたします。



市民のための環境公開講座



清掃活動の様子



植樹活動の様子



車いすの清掃の様子

◆編集後記

2020年12月19日～2021年1月27日のひと月、エコライフ・フェア2020オンラインに出展し、環境教育・ESDに関する取り組みを掲載しました。当初は、6月に新宿御苑で開催される予定の行事でしたが、新型コロナウイルス感染予防のためオンラインでの開催となりました。また、2020年12月19日(土)に開催された「ESD活動推進ネットワーク全国フォーラム2020」の特設サイト「バーチャル・ポスターセッション」にも参加・出展し(～2021年1月29日)、今年度の活動を報告しました。

特定非営利活動法人持続可能な開発のための教育推進会議

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里 5-38-5 日能研ビル 201 T:03-5834-2061 F:03-5834-2062

会員募集中：正会員(10,000円)、準会員(3,000円) 詳しくはWEBサイトをご覧ください



LINEアカウント
開設しました!

